令和４年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立 海老沼 小学校 ）　　学校番号　０７７

【様式】

目指す学校像	○学ぶよろこびのある学校　○人との関わり合いを大切に、地域とともに歩む学校　○家庭や地域と連携した教育活動を行う、信頼された学校　○安全で美しい学校

重点目標	１　魅力ある学習指導の工夫改善・充実と健康教育の推進 ２　豊かな心を育む教育の推進（生徒指導・教育相談の充実）安全・安心で美しい教育環境の整備 ３　学校運営協議会を中心に、地域・保護者と共に歩む学校づくりの実現 ４　校内研修の充実

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日令和５年２月２４日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	○学校評価アンケートの「授業に進んで取り組んでいる」に肯定的に回答した児童が９１％である。 ○普段の学習の様子では、タブレットを活用した学習に興味を示す児童が多い。 ●全国学力状況調査では、国語、算数とも市平均と比べ、若干下回る結果である。 ●全国学力状況調査の自校結果より算数の図形分野と国語の言語分野「知識・技能」に困難さがある。	・授業改善や授業力向上を図り、子どもたちの学力向上を図る。	①STEAMS 教育の確実な実施（プログラミング教育）により、論理的思考の育成と共に、児童が主体的に学び、分かったことが実感できる授業を実践する ②ICT の活用（ドリルパーク・スタディサプリの活用）をすることで、興味をもって繰り返しの学習を行い基礎基本事項の定着できるようにする。 ③読書タイムや図書館イベント等により読書の習慣化を図る	①学校自己評価アンケートに係る教職員アンケートにより、教育課程の項目において肯定的な回答をする教員が８０％以上となったか。 ②国語、算数について、市学調において令和元年度比向上したか。 ③学校図書館の貸出冊数を昨年度比５％増加したか。	今年度から始まった STEAMS TIME は各学年において確実に実施している。また、既存の学習教材に加えタブレットを活用した学習教材を授業や家庭学習に取り入れることで、児童の学習への意欲付けとなった。教職員アンケートは全職員が肯定的な評価だった。 読書活動については、図書主任、司書の連携により、委員会の児童とともに読書好きになるようなイベントや、毎週の１回の読書タイムを行うことでわずかながら貸出冊数を増加させることができた。	B	児童、教職員の取り組み方に対しての評価は高かったが、それに準じた学力向上見られなかった。ドリルパーク、スタディサプリ等の活用の仕方について、もっと児童自身が自立して取り組んでいく必要がある。また、読書活動をさらに高め、読解力の育成を図ることが必要である。そのために読書タイムの実施方法の改善や、ボランティアの設置等の検討をする。	・児童が肯定的な評価をしているのと同様、教師が児童を肯定的に評価できるのは、双方の信頼関係の表れである。何よりも教師が「児童が元気になる評価をしている」のがよい。 ・学力を身に付けることは当然必要であるが、児童が高い自己肯定感を抱いていることは、地域、保護者として安心である。自己肯定ができてさえいれば、学習の必要性、学習の方法などは中学生になれば身に付いていく。スムーズに移行するために小・中の連携が非常に重要である。
		・海老沼タイムを活用し、子どもたちの体力アップを目指す。	①海老沼タイムを活用し、様々な運動を経験することで体力アップと共に運動を習慣化する。 ②基本的健康習慣・疾病等予防習慣の向上（健康）○むし歯、疾病等の早期治療治癒を目指した指導	①学校自己評価に係る児童アンケートにおいて、体力向上に関する項目で肯定的な評価が昨年度より向上したか。 ②むし歯、疾病等の治療率８５％以上。	週１回の海老沼タイムでは、基本的な体操から持久走、大なわとびなどを計画的に行った。休み時間にも取り組んでいる児童も多い。児童アンケートは昨年同様であった。 保健指導では、むし歯予防に焦点を当てて、教育委員会、校医の協力のもと全学年に指導を行った。むし歯治療率２学期分 60%	B	より効果的に体力をつけることができるように、持久走の際には業間運動も視野に入れて検討する。 むし歯治療については、全学年の児童に指導できたが、歯石、に関する受診には至らなかった。来年度も引き続き取り組んでいく。	
2	○「ルールを守る」「安全に気を付ける」について肯定的に回答した児童は９１％９５％と高い割合になっている。 ○児童一人ひとりの状況を的確に把握し、組織的に支援・相談ができている。 ●コロナの影響が長期化することにより、児童が抱える困難さがより複雑化している。 ●教職員による安全点検を確実に行うだけでなく、昨年度に引き続き児童が自ら危機を予測したり、回避したりする力を育くむことが課題である。	・いじめ防止や不登校の子どもたちの心に寄り添った積極的かつ繊細な教育相談及び生徒指導を展開する。	①自己評価シート、当初面談を活用し一人ひとりが活躍でき居場所のある学級づくりを各クラスで行うようにする。 ②組織的な初期対応を確実に行い、きめ細かい児童理解を進める。可能性、個性、変化、変容を認める。 ③関連機関との連携やＳＣ・ＳＳＷの活用し、児童理解に努める。 ④道徳の授業の充実、体験活動の場や機会の充実	①学校自己評価に係る児童アンケートにおいて、「学校（学級）が楽しい」の肯定的な評価が９０％以上となったか。 ②学校自己評価に係る教職員アンケートにおいて、生徒指導、教育相談の５項目の肯定的な評価が９０％以上となったか。	全職員が一丸となって組織的に子どもたちの諸問題の解決に向けた取り組みを推進した. 児童アンケートは肯定的な評価が９３％であった。また、中学校の SC による教育相談の合同オンライン研修会を行った。 生徒指導、教育相談からの情報共有が早くなり、細やかな対応も見られるようになってきた。また、教育相談室等各機関や、SC、SSW の活用連携を積極的に行った。教職員アンケートは肯定的な評価が９５％を超えている。	B	心の元気度が低い児童もおり、教室にいられない児童やなかなか学校に登校できない児童もいる現状を踏まえ、教育相談をさらに推進していく。教職員研修を通して、教職員のスキルアップを行う。 関係機関や SC、SSW との連携をさらに行い、児童が相談しやすい機会や場を提供していく。中学校とのあいさつ運動の実施を検討している。	・発達に課題がある児童の割合が増えているように、教育相談的な対応が必要な児童の割合も増えている。その中でさまざまな児童に個別対応されている教職員に頭が下がる思いである。 ・児童見守りについては、ボランティアとして募るのは地域の方、保護者の方への「義務感」につながってしまう恐れがある。児童の登校時間に合わせて、散歩、ゴミ出し、買い物等の外出をお願いするという形はどうか。 ・挨拶、安全指導については、大人の側からアプローチを続けていく。
		・安全安心な「学びの場」としての施設・設備、環境の整備と自己防衛力の育成。	①安全教育（定期的な登下校指導、一斉下校、班長会議、特別活動）を通して日々の登下校での事故回避、事件や怪我にあわない判断力、対応力を育成する。 ②安心・安全な学校施設のために、安全管理の重視と問題箇所の早期発見する ③適切な栽培計画、ビオトープの整備、により、校舎内外の美化及び清掃活動を徹底する。	①学校自己評価アンケートに係る教職員アンケートにより、安全教育の項目で肯定的な回答をする教員が９０％以上となったか。 ②月に一度の安全点検と日々の点検により修繕箇所の確認を行い、即日対応する。 ③学校自己評価に係る教職員アンケートにより、環境整備の項目で肯定的な回答をする教員が９０％以上となったか。	定期的な安全指導と、様々な事件の対応の際の学級活動を確実に行うことができた。また、学校だよりにも記事を掲載し、保護者や地域の方々への周知も行った。３校合同引き取り訓練を実施した。学校評価アンケートでは９５％の回答であった。 月１回の安全点検後即日に判断を行い修繕している。また、今年度は大きな樹木の剪定を教育委員会に依頼、実施した。そのほかの樹木の剪定は業務主査が行っている。学校評価アンケートでは全回答が肯定的であった。	B	安全指導は継続的に行っているが、自転車の乗り方や下校時の歩道の歩き方、また、公園の遊び方等近隣の方から注意を受けることがある。自身の事故回避だけでなく、周りを見て行動できる児童を育てていきたい。 学校施設の老朽化もあり、引き続き安全面には気を付けていく。（来年度は、トイレの改修工事が行われる。）	
3	（現状） ○昨年度、本校に学校運営協議会を立ち上げ、目指す児童の姿について熟議を行った。 ●今年度は、昨年度共有した目指す児童の姿を、家庭、地域に広め、地域に住み、地域に集う全ての人々に共有できるようにする。また、さらに熟議し、その実現に向けた方策を定め、継続的な行動に向けた一歩を踏み出す。	・学校運営協議会を中心に、地域保護者とともに歩む学校を目指す。	①スクールコミュニティによる地域・保護者との連携・協働の充実を図る。 ②学校だより、HP 等による学校からの情報発信を通して、広く本校の教育活動の理解を図る。 ③教職員個々の良さを生かした＋１の関わりを通して、信頼関係の構築を図る。	①年に３回の学校運営協議会で、目指す児童の姿勢を共有できた。と回答する割合が８０％以上となったか。 ②月に一度の学校だより、月に一度以上のＨＰの更新。 ③学校自己評価アンケートに係る教職員アンケートにより、情報提供の２項目の肯定的な回答をする教員が昨年度比より向上となったか。	学校運営協議会を３回実施する中で、本校の課題である登下校の安全面や目指す児童像等を話し合い共有することができた。 HP が途中で壊れてしまい、学校からの情報発信に HP を活用することができなかった。	B	これまでコロナ禍において実施できなかった教育活動を、新しい形として実践していく。その際、児童を中心において、教職員、保護者、地域の方々との連携が大切であると考える。 HP による情報発信を進めていきたい。学校運営協議会のコーナーを HP に設け、コミュニティスクールを周知する一助とする。	・学校運営協議会としては、学校の支援、協力、助言を行う組織として機能させていきたい。教職員、子どもたちの頑張りを見守っていきたい。 ・地域としては地域住民と子どもたちとの世代交流を提供していきたい。
4	（現状） ○令和３年度から、学校課題研究を「個別最適な学び」（算数科）を設定し、研修を行っている. ○学校課題研究と平行してＩＣＴの活用方法について、エバンジェリストが中心となり研修を行ってきた。 ○高学年で教科担任制実施により、担当する教科について、より深い教材研究を行うことができている。 ●ＩＣＴの活用について教職員での取組の差が見られる。 ●自分が担当した教科やクラスの状況について情報を共有したりすることが課題である。	・教師力人間力向上のためキャリアステージに応じた研修の機会を与え個に応じた適切な助言を積極的に行う。 ・教職員の心身の健康に留意し、働き方改革を念頭におき互いを支え合いながら、楽しく生き生きと働ける職場環境を整える。	①一人ひとりの教員が個別最適化な学びを目標とした授業を公開する。 ②ＩＣＴの活用方法についての研修を、２か月に１回以上実施する。 ③教職員の心身の健康に留意し、働き方改革を念頭におき、互いを支え合いながら、楽しく生き生きと働ける職場環境を整える。	①全ての教員が、自らの目標に向けて業務改善に取り組み、８５％以上の教員が目標達成を実感することができたか。 ②全ての教員が日常的にＩＣＴを活用する状況になったか。	全職員が学校課題研修として、ICT を活用した公開授業を行い、評価しあうことで指導力向上につなぐことができた。ICT 研修や指導訪問研修も「研修」の枠組みで行い、負担なく計画的に行うことができた。　すべての職員が毎日 ICT を授業等で活用することができている。 ICT を効果的に活用することや高学年に教科担任制を実施したことで、在校時間が昨年度より１０％以上減っている。	B	ICT を活用した学習を展開するためのリテラシーの向上を図る。 教科担任制については、本年度の各教科の持ち時数を検討. 発達段階や行事とも兼ね合いを考慮した形にしていく。	・小学校における教科担任制の導入はメリットもあるが難しい面も感じる。少しでも、教職員の負担を減らすように小・中一貫に基づき連携、共通理解、情報共有をする必要性がある。９年間を見据えた指導を行う上で必要な内容を合同研修（学習指導・生徒指導）として取り組んでいく。